



巻頭言

「働いて、働いて…」の意気込みで政権を担う、女性初の高市総理に切に願う  
「力強く走り抜く」とされる“午年の勢い”にならない、介護分野への本格的テコ入れを — 2

「ココリスPLUS(プラス)」4月開設へ! — 3

「ココリス」は生活介護に特化  
「世界は一つ」介護で働く外国人スタッフの声 — 3

高齢者・障がい部門「グローバル人材サポート交流会」  
第20回研究発表会 開催へ!(参加費無料) — 3

京都・大阪・鹿児島から7法人参加  
就活生応援メッセージ — 4~5

山中颯人さん(認定こども園正雀愛育園)/近藤陽葵さん(ライフステージ 夢咲)  
子どもたちの多様性に応えるインクルーシブ保育 障がい児研修 — 4

養成校と福祉現場の連携で育む次世代の介護人材 — 5

せつつ桜苑・松田有里さんが教職員と対談  
子育て支援 ページをめくれば、笑顔がポン! 認定こども園きりん愛育園 — 6

地域交流 「ありがとう50周年祭」地域とともに 岩戸ホーム — 7

トピックス — 8

神様に「ありがとう」を伝えた日  
心やさしき七五三詣り

認定こども園—津屋愛育園の2歳児クラスと4歳児クラス(計54名)は11月14日、同園から徒歩約13分の味生(あじふ)神社へ七五三詣りに出かけました。

道中には住宅街や交通量の多い道路もあるため、4歳児クラスの子どもたちが2歳児クラスの子どもたちと手をつなぎ、お兄さん・お姉さんとして優しく声をかけながら、慎重に歩く姿が見られました。

神社では、神主さんのお話に静かに耳を傾け、太鼓や笛の音に少し緊張しながらも、日本の伝統文化に触れる貴重な機会となりました。

参拝後には、「良い子になる」「神様ありがとう」といった子どもたちの素直な声も聞かれました。



太陽の塔とハイ、チーズ!  
万博公園で心もリフレッシュ

ココリス(障がい福祉サービス:生活介護)では11月1日、ご利用者12名とともに、広大な自然文化園や日本庭園が広がる「万博記念公園(吹田市)」へ遠足に出かけました。

昼食は、公園内の「日本庭園中央休憩所」で、事前に注文していたお弁当を広げ、ゆったりとした雰囲気の中で楽しくいただきました。食後は、ちょうど見頃を迎えていたバラ園を散策し、高さ123メートルを誇る日本一高い観覧車「レッドホース オオサカホール」や、シンボルである「太陽の塔(\*)」が一望できるスポットで記念撮影も行いました。「また行きたい!」とのお声も多くいただき、今回の遠足が皆さんにとって大きな楽しみとなりました。



(\*)太陽の塔 1970年の大阪万博のシンボルとして建てられた、高さ約70メートルの大きな塔で、芸術家・岡本太郎さんがデザイン

「のぼり」とともに伝える想い  
障害者週間の啓発に協力

デイ・サービス 夢咲(障がい福祉サービス:生活介護)では11月27日、障害者週間(\*)に合わせた啓発活動の一環として、舞鶴市から提供された「のぼり」を、ご利用者と一緒に敷地内に設置しました。

同期間中には、標高301メートルの五老ヶ岳山頂に建つ展望タワー(五老スカイタワー)が、障害者週間の啓発を目的に緑色にライトアップされました。夢咲の玄関前からもその光景を眺めることができ、「ホントに見えるわー」「キレイな緑やなー」と、楽しんでおられました。



(\*)障害者週間 毎年12月3日から9日までの1週間。障がいのある人々に対する理解と関心を深めるための啓発期間

小さな手と大きな笑顔  
上豊富保育園児との交流会

サンヒルズ紫豊館(福知山市)では10月24日、地域の上豊富保育園の4・5歳児クラス35名が来訪し、「笑ってシャーツ!」の歌や「やきいもグーチーパー」などの曲に合わせて、元気いっぱいダンスを披露してくれました。

「幸せなら手をたたこう」では、ご利用者と園児が一緒にふれあい、「子どもの笑顔を見たら元気になるわ〜」といった声も聞かれ、心温まる交流のひとつとなりました。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【高齢者施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【障がい施設経営方針】

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

巻頭言



「働いて、働いて……」の意気込みで政権を担う、女性初の高市総理に切に願う  
「力強く走り抜く」とされる、午年の勢いにならない、介護分野への本格的テコ入れを

理事長 高岡 國士

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より、社会福祉法人成光苑の事業推進に多大なるご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

処遇改善が十分進めば  
福祉分野への人材復帰も

本年は午年にあたります。馬にまつわる言葉には、「勝ち馬に乗る」や「馬車馬のように働く」など、一心に目標へ向かって突き進む姿を表すものが多くあります。時代とともに言葉の意味合いは変化しますが、馬は本来、「走り抜く」「力強い」「勝利を目指す」といった前向きなイメージで語られることが多いようです。

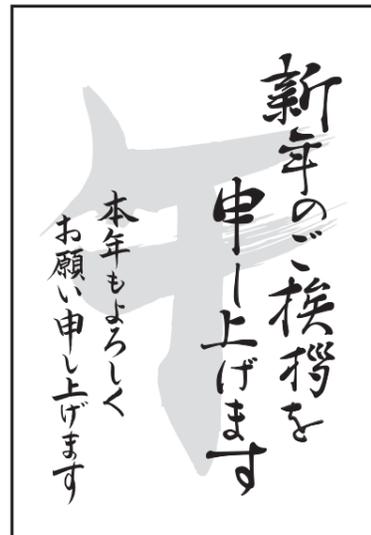
昨年、自民党の総裁選で、高市氏が女性初の総裁に選ばれた直後の挨拶で、「馬車馬のように働く」と表現し、続けて、「働いて、働いて……」が2025ユニキャン新語・流行語大賞（年間大賞）に選ばれ、政権運営への意気込みを力強く示されたことが思い出されます。政局としても難しい舵取りが求められる中、介護分野への本格的なテコ入れを切に願うところです。

というのも、厚生労働省の賃金構造基本統計調査によれば、平成20年時点で全産業平均と介護職員の賃金差は約10万円でしたが、令和2年には約6万円まで縮小したものの、令和6年には再び約8万円に拡大している状況にあります。こうした中、11月28日に閣議決定された令和7年度補正予算では、2027年度の介護報酬改定を前倒しする形で、臨時の介護報酬改定が予定されています。処遇改善（賃上げ）にとどまらず、基本報酬の底上げや、訪問介護・ケアマネジャーの処遇改善が十分に図られれば、介護福祉分野への人材復帰が期待できるでしょう。

正念場の10年へ

法人の価値を高める人財育成や情報共有の効率化  
このような動きに備え、各園・施設（事業所）においては、採用情報の整理や職場環境の見せ方（ICT等の実用化推進による生産性向上の取り組み）を整えておくことが、現場にとって確かな好機となります。

成光苑としても、提供するサービスの質の向上やスタッフの定着・確保のため、人財育成や情報共有の効率化など、生産性向上に取り組むことは、社会福祉法人としての価値を高めるうえで極めて重要であると考えております。2030年・2040年問題を見据えた今後の5年、10年は、社会福祉法人としての正念場となることが予想されます。成光苑の各部門が全力を尽くして取り組んでいただくよう、改めてお願い申し上げます。



関係各位におかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

福祉の職場が  
働く人に輝かしい場であることを

当法人といたしましても、社会福祉法人の本旨に則り、福祉サービスの供給確保という中心的役割を果たすとともに、既存制度の対象外となるサービスの提供、すなわち地域における公益的な取り組みを継続していくことが重要であると認識しております。人口減少時代を迎える中、共生社会の中核を担う地域福祉の拠点として、10年後も地域住民から最も信頼される社会資源となるべく、地域に愛され、信頼される園・施設の運営に努めてまいります。

一人の経営者として、福祉の職場がすべての働く人にとって輝かしい場となることを、心より願っております。

「ありがとう50周年祭」地域とともに  
岩戸ホーム・鴨野町自治会の節目を祝う

岩戸ホーム(福知山市)では10月4日、鴨野町自治会創設50周年および岩戸ホーム設立50周年を記念して、鴨野町自治会と共同で「ありがとう50周年祭」を開催しました。

会場には、鴨野町の有志の皆さまが手作りした竹灯籠が幻想的に灯され、やさしい光で彩られました。雨模様となり、ステージイベントは施設内の「すずらんホール」にて開催されましたが、地元を中心に活動されている和太鼓グループ「三音」やバンド「ウッド・エッグス」(写真)のパフォーマンス、演歌歌手・大林幸二さんによる昭和歌謡ショーなどが披露され、会場は大いに盛り上がりしました。「ええ声やなー」と感心する声も聞かれました。

また、キッチンカーコーナーや、かがやき農園(京都エリア)で採れた新鮮な野菜・果物の販売も行われました。福祉ネイル(\*1)やカラーセラピー(\*2)の体験では、見た目の美しさだけでなく、心の元気も育むような、やさしいケアのひとつを楽しんでいただけました。



(\*1)福祉ネイル 高齢者などを対象にした、心も元気になる優しいネイルケア  
(\*2)カラーセラピー 色を使って心の状態を見つめ、気持ちを整えるセラピー

高校生の熱演に拍手喝采!  
第20回秋まつり 高槻けやきの郷

高槻けやきの郷では11月19日、「第20回秋まつり」が開催されました。会場にはフランクフルト、回転焼き、焼きそば、ポップコーンなど、定番の模擬店や飲食・物販ブースがずらりと並び、どのお店も大盛況。完売が続出するほどの人気ぶりでした。

今回は「大阪府立大冠高等学校」の生徒さん約50名が参加し、ブラスバンドや和太鼓の演奏を披露してくれました(写真)。とくに和太鼓部は全国大会にも出場する実力派で、地域イベントでも数多くの演奏経験を持っています。「咲くよこの花」や「深紅の恋」など、迫力あるリズムで会場を大いに盛り上げてくれました。演奏を聴いた方からは「とても迫力があって感動しました!」との声もあり、思わず涙ぐむ姿も見られました。



鼓隊ドンドン!笑いドッカン!  
地域とともに13回目の秋まつり



せつつ桜苑  
せつつ桜苑では10月19日、今年で第13回となる「2025せつつ桜苑秋まつり」が開催されました。

模擬店の野菜販売は、開始早々から人だかりができ、即完売となるほどの盛況ぶり。飲食ブースでは、ベトナム料理のフォーが人気。焼きそば、焼き餃子、土手焼き、フランクフルトなどの定番メニューと並び、異国の味も楽しめるラインナップで、地域の多様性を感じられる内容となりました。

また、体力測定や福祉用具の相談、ハンドマッサージ、ネイルアートなどのブースは、医療・福祉関連のサポートを行う「株式会社 三笑堂」さんが企画。スタッフだけでは実現が難しい内容を支えてくださいました。特設ステージでは、系列こども園の園児たちによる鼓隊演奏が披露され、元気いっぱい

祝いの音が  
今も耳に残る  
にぎわいの  
記憶

見て聞いて体験して!  
「HATARAKU」の魅力大集合!  
秋のわくわくデイ2025



ライブ・ステージ 舞夢  
ライブ・ステージ 舞夢(舞鶴市)は11月15日、加佐地域福祉センター・由良川学園(\*)で、オープンデイ「秋のわくわくデイ2025」を開催しました。当日は50名を超える地域住民が参加し、テーマ「HATARAKU(働く)〜元気力発進!〜」のもと、女性スタッフの活躍や各事業所の取り組みが紹介され、元気に前向きな力を届ける一日となりました。

スタッフが制作したPR動画「働く女性の魅力発信」では、各事業所で働く女性介護スタッフが、日々の業務に取り組む様子や、笑顔で利用者と接する姿を紹介。「舞夢では、出産や子育てなどのライフイベントと両立しやすい環境が整っており、自分らしい働き方ができること」や、「ご利用者との信頼関係を通じて人間関係を築く力が養われたこと」など、女性ならではの繊細さと強さのバランスがしっかりとアピールされました。また、地域に根ざした福祉用具貸与事業を展開する「株式会社イン・ザ・ルーム」さんの協力により、AI搭載の介護機器の展示や車いすの試乗体験、普段使いの靴や杖の販売なども行われ、多くの来場者の関心を集めていました。

(\*)加佐地域福祉センター・由良川学園 舞鶴市立の福祉施設で、地域の高齢者を中心とした福祉支援の拠点

# ココリスPLUS(プラス) 4月開設へ!

## 3事業を分離・独立

- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 障がい児相談支援



社会福祉法人成光苑では障がい福祉施設「ココリスPLUS(プラス)」(大阪府摂津市)の令和8(2026)年4月1日の開設を目指し、着実に準備を進めております。

新たに開設される「ココリスPLUS」では、「ココリス」から児童発達支援、放課後等デイサービス、障がい児相談支援の3事業を独立させ、それぞれの専門性を高めます。定員もこれまでの10名から20名へと倍増し、より多くの方々にご利用いただける体制を整えます。



- P Play (遊ぶ・楽しむ)
- L Life (生活する)
- U Up (上に向かう・高める)
- S Smile (笑顔)

## 「ココリス」は生活介護に特化

「ココリス」(平成28(2016)年4月1日)は、まもなく10年目を迎えます。この節目を機に、地域の多様なニーズにより柔軟に対応できるよう、「ココリス」と新設の「ココリスPLUS」の2施設が連携し、支援体制のさらなる強化を図ることとなりました。

今後、地域の皆さまの声を耳を傾けながら、一人ひとりに寄り添った質の高いサービスの提供に努めてまいります。

## 世界は一つ 介護現場で輝く 外国人スタッフの声

### グローバル人財サポート交流会に31名参加

高齢者・障がい部門では11月17日、「令和7年度グローバル人財サポート交流会」(会場:せつ桜苑)を開催しました。技能実習生や特定技能の外国人スタッフ14名、介護福祉士資格を持つ正規雇用スタッフ2名を含む、計31名が参加しました。

当日は、外国人正規スタッフ2名による「先輩メッセージ」も披露されました。グループホーム舞夢(舞鶴市)の原田麻里介護主任は、1986年にフィリピンから来日。言葉の壁に悩み、お子さんに日本語の絵本を読めなかった経験を振り返りました。地域の支えや、介護講座で出会った上野由香子施設長(現上司)とのご縁が、介護の道を志すきっかけになったと語ります。

現在は後輩スタッフの支援にも力を注ぐ原田主任。「日本語を学び続けること」「文化の違いを理解すること」「仲間と助け合うこと」の大切さを伝え、「世界は一つ。文化は違っても、心はつながっています」と力強く呼びかけ、会場は温かな拍手に包まれました。

高齢者・障がい部門

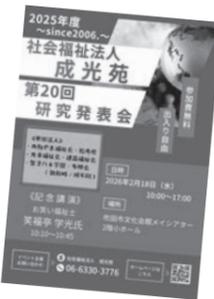
## 第20回 研究発表会 開催へ!

社会福祉法人成光苑では、「第20回研究発表会」を開催いたします。今回は、成光苑を含む京都・大阪・鹿児島県の計7法人が参加し、高齢者・障がい福祉の現場における実践や研究成果を発表します。

各法人の取り組みを共有することで、支援の質の向上と地域福祉の発展を目指します。節目となる第20回は、これまでの歩みを振り返り、これからの福祉のあり方を考える機会として、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

### 開催概要

- 日時 令和8年2月18日(水)
- 時間 10時~17時
- 会場 吹田市文化会館 メイシアター(吹田市泉町2丁目29番1号)
- 主催 社会福祉法人 成光苑
- 対象 福祉・医療関係者、地域住民、学生、その他関心のある方
- 参加費 無料(途中入退場自由)



## 地域に根ざす福祉の未来像を共有

### 鳥取県より福祉施設関係者14名視察 岩戸ホーム

岩戸ホームでは10月23日、鳥取県社会福祉施設経営者協議会の依頼により、加盟する9施設から役職者14名が視察に訪れました。これは、他地域の優良施設を見学し、経営力の向上や地域貢献のあり方を学ぶ取り組みの一環です。

当日は、達協博人施設長が、高齢化の進行や地域福祉の課題、公共交通の空白地対策など、安心して暮らせる地域づくりに向けた取り組みを紹介しました。また、2024年度日本経営品質賞奨励賞を受賞した取り組みについては、原栄子事業部長が「連携がひらく未来」をテーマに、地域・職員・利用者とのつながりを深めながら、「10年後も地域の人々にとって最も頼りにされる社会資源を目指す」という明確なビジョンのもと、地域との連携を重視した経営についてプレゼンテーションを行いました。

視察に参加された皆さまからは、「地域との連携がとても参考になった」「自施設でも取り入れたい工夫が多くあった」といった前向きな声が寄せられました。



## ページをめくれば、笑顔がポン!



認定こども園きりん愛育園

### 「絵本DEなかよし」に16組参加

認定こども園きりん愛育園で11月17日、吹田市山田地域の民生委員・児童委員と協力し、親子向けイベント「絵本DEなかよし」が開催され、地域の親子16組が参加しました。

絵本を通じて親子のふれあいを深めること、地域の子育て支援施設を知ってもらうことが目的です。

当日は「あっぷっぷ」など5冊の読み聞かせが行われ、大型絵本『だるまさんが』では、子どもたちが動きをまねて楽しむ様子が見られました。保育スタッフからは「絵本通信(\*1)」の配布や座布団読み(\*2)の紹介もあり、保護者も熱心に耳を傾けていました。

アンケートでは「新鮮だった」「同じ月齢の子と過ごせてよかった」などの声が寄せられました。

- (\*1) 絵本通信「絵本とともだち」愛育園が独自に制作した小冊子で、人気の絵本を使った保育の様子や子どもたちの反応を紹介(「ききょう」2016夏号掲載)
- (\*2) 座布団読み 親子が座布団に座り、子どもを膝にのせて絵本を読み、スキンシップを深める(写真)

## ねずみと一緒に、心もピョン!

### 民生委員と5歳児が交流会



認定こども園千里丘愛育園

認定こども園千里丘愛育園では10月30日、5歳児クラス(52名)と地域の民生委員(6名)による「お楽しみ会」を初めて開催しました。これまでも地域との交流を大切にしてきたことから、民生委員の方々と新たなつながりを深める機会として企画されたものです。

子どもたちはミュージックベルやハーモニカで演奏を披露し、大きな拍手を受けました。その後は、民生委員の方に教わりながらバルーンアート(\*)で「ねずみ」を作り、飛ばして遊ぶなど楽しい時間を過ごしました(写真)。

民生委員の皆さんからは「元気をもらった」「一緒に遊べて楽しかった」との声があり、子どもたちにとっても心に残る交流となりました。

- (\*1) バルーンアート 細長い風船を使って動物や花などの形を作る遊び

## 法人内連携の新たな一歩 秋まつりで地域とふれあい

ココリス・認定こども園一津屋愛育園

ココリス(障がい福祉サービス)と認定こども園一津屋愛育園は11月22日、合同で「秋まつり」を開催しました。今回は、法人内の障がい部門と保育部門が協力して実施した初の試みであり、子どもたちと障がいのある方が自然にふれあう場をつくること、そしてお互いの存在を知り合い、共生社会への理解を深めることを目的としています。

両施設は徒歩1分ほどの距離にあり、当日はココリスと一津屋愛育園の2会場に分かれて開催されました。焼きそばやフランクフルトなどの飲食コーナー、輪投げやボールすくいなどの遊びコーナー、かがやき農園(「ききょう」2025秋号掲載)による新鮮な野菜販売、そしてバザーコーナーなどが並び、園児やご利用者のご家族、地域の皆さまなど、多くの方々が訪れ、にぎわいを見せました。

来場者からは、「お腹いっぱい食べた!」「新鮮な野菜に感動!」といった嬉しい声が寄せられ、家族や友だちと笑顔で過ごす姿があちこちで見られました。

## 初めての体験にドキドキわくわく!

### ファミリー運動会に4組参加 認定こども園正雀愛育園

認定こども園正雀愛育園では11月8日、地域子育て支援事業として「ファミリー運動会」をホールで開催しました。今回は、0・1歳児の親子4組が参加されました。

当日は、箱車に乗って保護者に引っ張ってもらったり、音楽に合わせて体を動かす体操、カラフルな玉を使った玉入れなど、さまざまな遊びを楽しみました。トンネルくぐりやセンサーマット(\*)の上を歩く遊びでは、初めての感触や動きに驚いて泣いてしまう0歳児の姿も見られましたが、保護者のあたたかい声かけや抱っこで安心し、少しずつ笑顔を見せてくれるようになりました。



参加された保護者の方からは、「家ではなかなかできない遊びや、他の子どもたちとの関わりも良い刺激になりました」との感想をいただき、子どもたちの成長を感じられるひとときとなりました。

- (\*1) センサーマット 子どもの五感を刺激するための感覚遊び用マット(写真)

# 就活生応援メッセージ



**近藤 陽葵**  
ライフ・ステージ 夢咲  
2025年度入社

ご利用者の表情・しぐさ・言葉など  
小さな変化にも丁寧に向き合いたい  
—自分のどんな所が—  
今の仕事に生きていけると感じますか？  
私は、人の気持ちに寄り添うことや、人の  
関わりを大切にしています。不安を感じ  
ている方に対して、「どうすれば安心して  
もらえるか」「何を求めているのか」と考える中  
で、自分の強みが生かされていると感じま  
す。すべてを理解することは難しいですが、  
ご利用者が少しでも快適に過ごせるよう、  
相手の立場に立ち考えていることを心がけてい  
ます。日々の関わりの中で、表情やしぐさ、  
言葉の変化に気づけるよう意識し、小さな  
変化にも丁寧に向き合うよう努めています。

戸惑いも経験に変えて  
ともに働ける日を楽しみに  
—学生の皆さんにメッセージを—  
最初は何も分からず、戸惑いや不安も多  
くありましたが、仕事に慣れるうちに少  
ずつ心に余裕が生まれ、やりがいを感じら  
れるようになりました。不安はあって当然  
です。大切なのは、自分なりのペースで前  
向きに仕事に向き合うことだと思います。  
学生の皆さんにしかできないこともたく  
さんあります。今という時間を大切にしま  
ささまざまな経験を楽しんでください。応援  
しています。そして、いつか同じ現場(夢  
咲)で、支え合いながら働けたら嬉しいで  
す。



**山中 颯人**  
認定こども園正雀愛育園  
2025年度入社

苦手なこともあきらめずに  
振り返りを大切に努力を続ける  
—自分のどんな所が—  
今の仕事に生きていけると感じますか？  
私は、苦手なことにも諦めずに努力を続  
ける性格です。2年前からピアノを始め、得  
意ではありませんが、保育に必要な技術の  
ため、毎日練習を重ねて多くの曲が弾ける  
ようになりました。また、言葉遊びや製作の  
説明がうまくいかなかった時は、自分で改  
善点を考えたり先輩に相談したりして振り  
返りを大切にしています。子どもたちの気  
持ちに寄り添い、伝わる声かけを意識する  
ことで、自分の成長を実感しながら保育に  
取り組んでいます。

不安があっても大丈夫  
誰もが最初は同じ気持ちです  
—学生の皆さんにメッセージを—  
学生のうちは、「仕事がつまんでできるか  
な?」「人間関係は大丈夫かな?」と、不安  
に思うことも多いと思います。私自身も  
就職前にはたくさんの不安を抱えていま  
した。しかし、実際に園で働き始めると、そ  
うした不安は自然と消えていきました。先  
生方は皆さん優しく、気さくに声をかけて  
くださったり、頑張りを認めてくださったり  
と、安心して働ける環境が整っていました。  
だからこそ、学生のうちはあまり不安  
になりすぎず、今のうちにしかできない遊  
びや勉強を大切にしていきたいと思いま  
す。

# 子どもたちの多様性に応える インクルーシブ保育

保育部門

障がい児研修に69名参加



保育部門では11月29日、愛育会館(法人本部3F)で「障がい児研修」を開催しました。テーマは「インクルーシブ保育(※)について考える ～より良い保育実践に向けて～」。

この研修のきっかけは、各園で実際に障がいのある子や発達に特性のある子と関わる中で、「一人ひとり寄り添った保育について考えたい」「インクルーシブ保育について知りたい」と保育スタッフが感じたことにあります。

参加者からは、「子どもが笑顔で安心できる環境を作っていきたい」「他園の工夫を明日にでも取り入れたい」などの感想が寄せられ、子どもたちの個性や可能性を見つめる視点が一層深まったことがうかがえました。

(※)インクルーシブ保育 どんな子も一緒に育ち合う保育のこと。障がいの有無にかかわらず、みんなが安心して過ごせるように、一人ひとりを大切に保育

## 養成校と福祉現場の連携で育む次世代の介護人材 せつつ桜苑の松田有里さんが教職員と対談

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 令和7年度 全国教職員研修会が、11月1日に京都私学会館(京都市下京区)で開催されました。第一分科会「介護福祉士養成校の魅力を考える～教職員と現場管理者による対談～」では、せつつ桜苑の松田有里施設課長(写真右)が大阪人間科学大学人間科学部社会福祉学科の武田卓也教授と対談し、介護現場の責任者と養成校教員という立場から、養成校出身職員の活躍や在学中の教育への期待について意見が交わされました。

せつつ桜苑では、複数の養成校から年間50名以上の実習生を受け入れており、実践力を備えた卒業生が現場リーダーとして活躍しています。事前に行われた施設内の聞き取りでは、「在学中に先生に支えられて実習を乗り越えられた」「養成校でしっかり学べたことで、現場での技術習得が早かった」といった声も寄せられ、対談の中で紹介されました。

今回の機会を通じて、養成校と福祉施設が連携し、次世代の介護福祉人材を育てていくことの重要性が改めて確認されました。



## 未来の福祉を担う一歩 福知山淑徳高校生が介護の現場にふれる

岩戸ホーム

岩戸ホームでは11月25日、福知山淑徳高等学校の2年生10名が介護体験学習を行いました。

オリエンテーションでは、入浴介助に関する動画を視聴し、専用の蛍光ローション(薬剤)を使った「手洗いチェック」を体験しました。このローションは汚れやウイルスに見立てたもので、目には見えませんがブラックライトに反応して光る性質があり、「見て納得できる」学びとしてとても効果的です。

その後は、特別養護老人ホームで介護補助体験を行いました。入浴では、ご利用者と一緒に着替えの準備をしたり、入浴後の整髪をお手伝いされたほか、居室のシーツ交換や清掃にも取り組まれ、介護の仕事の内容やご利用者の生活について理解を深められました。おやつの中には、ご利用者に積極的に声をかけながらコミュニケーションをとる姿が見られ、笑顔があふれていました。

体験を終えた生徒からは、「初めての体験でしたが、今後の進路にも役立てていきたい」といった声が聞かれました。



## 認知症を学んだ子どもたちのまなざし 上豊富小4年生が認知症サポーターに

サンヒルズ紫豊館

サンヒルズ紫豊館では9月から11月にかけて、福知山市立上豊富小学校の4年生11名を対象に、認知症サポーター養成講座(全4回)を実施しました。

同校との交流は今年度で10年目を迎え、福知山市ではこの活動を「オレンジのまじわり」と位置づけています。これは、高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉の3つの分野を横断的に結びつけ、地域全体で支え合う社会の実現を目指す取り組みです。

講座では、同校での寸劇を交えた座学や車椅子体験に加え、実際に施設を訪れてご利用者とふれあう機会も設けられ、子どもたちは認知症への理解を深めていきました。

11月6日には、同市職員より「オレンジリング」が授与され、子どもたちは達成感に包まれていました。アンケートでは、「困っている人がいたら助けたい」「もっと認知症について勉強したい」など、頼もしく前向きな感想が多数寄せられました。



## 吹田竜ヶ池ホームのジュウさん(ベトナム出身)

# 全国の舞台で 介護技術を披露

第15回オールジャパンケアコンテスト(10月4日、主催:社会福祉法人こうほうえん)が東京ビッグサイトで開催され、吹田竜ヶ池ホームのマイティ・ジュウさん(ベトナム出身、2018年入社、2022年に介護福祉士取得)が「外国人介護職員分野」に出場しました。

本大会には全国から147名の介護従事者が参加。ジュウさんをはじめ、中国、ベトナム、スリランカ、インドネシア、フィリピンなど、過去最多となる30名の外国籍の方々が出場しました。

「とても緊張しましたが、他の選手の演技を見て勉強になりました」と前向きな感想が聞かれ、今後のさらなる活躍が期待されます。

第15回オールジャパンケアコンテスト

## 育ててつくって、いただきます! くらみ小規模保育園

# ほくほく笑顔のスイートポテト



くらみ小規模保育園では11月21日、さつまいもクッキングを行いました。

5月に園舎前のプランターと小さな畑にサツマイモの苗を植え、2歳児たちが毎日お水をあげて大切に育ててきました。

暑い夏を乗り越え、いよいよみんなでサツマイモ掘りに挑戦!なんと、5.5kgものサツマイモが収穫でき、子どもたちは「いっぱいおれたー!」と大喜びでした。

収穫したお芋は、まずはみんなでゴソゴソと洗い、お昼寝前に炊飯器に入れてスイッチON。目が覚めると、ふわっと甘い香りが広がり、「いいにおい〜!」と目を輝かせました。

その後、エプロンと給食帽を身につけ、密封袋にふかし芋・バター・砂糖を入れて「もみもみ」。スイートポテト風のおやつが完成しました。自分で育てて、作ったおやつは格別の味。「おいしい!」と、大満足の様子でした。



## 親子でたっぷり、わさびになって大冒険! 「できた!」があふれた運動参観の日 くらみ愛育園

くらみ愛育園では11月1日、乳児クラス(0~2歳児・42名)による運動参観を行いました。これまでは園近くのグラウンドで幼児クラスと合同で実施していましたが、乳児は集中力が短く、移動や環境の変化が負担になることを考慮し、今年は園内で安心して楽しめる運動遊びを行いました。

親子ふれあい遊びでは、保護者と手をつないで歩いたり、抱っこでぐるぐる回ったりと、笑顔があふれました。また、絵本「11匹きのねこ ふくろのなか」をテーマにした運動遊びでは、子どもたちが「ねこ」になりきって「にゃおにゃお」と鳴きながら花畑を通ったりと、物語の世界を楽しみながらのびのびと体を動かしていました。

子どもたちは「できた!」という達成感や、保護者と過ごす喜びを味わい、保護者の方にとっても、成長を間近で感じられるひとときとなりました。

